

水稻新奨励品種月の光について

西尾和明・稻村達也・渡辺英信^{*}・徳山博康^{**}

On the New Recommended Rice Variety "Tsukinohikari" in Nara Prefecture

Kazuaki NISHIO, Tatsuya INAMURA, Hidenobu WATANABE
and Hiroyasu TOKUYAMA**Key words:** recommended variety, rice plant

奈良県の水稻奨励品種は現在11品種あり、このうち、早生の秋晴は、小粒で乳白・腹白の発生がやや多く、品質が十分とはいえず、1988年には作付面積比率が3%以下となっている。早生晩のアキツホは良質・良食味品種として一応評価されているが、ごま葉枯病に弱く、肥沃地でないと収量性が不十分である。また、南部中間を中心に縮葉枯病が年により多発し、防除に困難を来たしている。そこで、これらに代替できる品種として、1983年から6か年の水稻奨励品種決定調査事業を通じて月の光を選定し、1990年1月奨励品種に採用されたので、その特性について報告する。

来歴 愛知県農業総合試験場作物研究所（愛知作研）において、あ系103Bを母とし、愛知37号／北陸103号F₁を父として、人工交配を行った後代から育成されたものである。1982年から愛知56号の系統名を付され、1985年に月の光と命名されたものである。^{1,2)}

特性 1983年から1988年まで、平坦部（標高100m以下）では樋原市四条町農業試験場（本場標肥、本場多肥）および現地の磯城郡田原本町（田原本）に、中間部（標高100～300m）では現地の生駒郡平群町（平群）および五条市野原町（五条）に、山間部（標高300m以上）では宇陀郡櫟原町農業試験場高原分場（分場）および現地の山辺郡都祁村（都祁）に圃場を設けて、本場は6月18日前後の移植、分場は5月25日前後の移植、栽植密度は17.9株/m²の中苗機械植で試験を行い、生育、収量等について秋晴、アキツホと比較検討した。

月の光の特性を第1表に示したように、平坦部の本場標肥、本場多肥および田原本での出穂期は秋晴に比べ、

同じく1日早く、アキツホより2～3日早かった。また、月の光は稈が短く、穂が長く、穂数が少なかった。収量については秋晴に比べ、本場多肥、本場標肥とも105%であり、アキツホに比べると、本場標肥で103%、本場多肥で105%、田原本では110%以上といずれも多かった。肩米については平坦のいずれの場所も少なかった。品質は秋晴に比べ、本場標肥、本場多肥とも良く、アキツホに比べると、本場標肥で良く、本場多肥ではわずかに劣り、田原本ではやや劣っていた。食味は食総研パネル方式により実施したところ、アキツホに比べ、外観で優れ、粘りでは変動があり、総合評価では同等以上であった。倒伏に対しては本場標肥の秋晴、本場多肥の秋晴、アキツホは少し倒伏したが、月の光は倒伏しなかった。

中間部の五条および平群での出穂期は秋晴に比べ、1日早く、アキツホに比べると、3日早かった。また、平坦部と同様に稈が短く、穂が長く、穂数が少なかった。収量は秋晴に比べ、110%以上であり、アキツホに比べると、五条で110%以上、平群で105%と多く、肩米についても平坦部と同様に少なかった。品質は秋晴に比べ良く、アキツホに比べると、五条でやや良く、平群でやや劣っていた。また、秋晴、アキツホでの縮葉枯病の発生は五条で1985～1988年、平群で1987年にみられたが、月の光には発生はみられなかった。

山間部の分場および都祁では、出穂期は秋晴より1～2日早かった。稈長、穂長、穂数については平坦部、中間部と同様の結果であった。収量は分場で99%と秋晴よりわずかに少なく、都祁では103%と少し多かった。肩米については平坦部、中間部と同様に少なかった。品

* 現奈良県郡山農業改良普及所

** 現奈良県農政課

1) 愛知県農業総合試験場、1983.愛知水稻育成系統に関する成績書、愛知県農業総合試験場、7-9.

2) 愛知県農業総合試験場、1985.水稻奨励品種査定委員会資料、愛知県農業総合試験場、25-49.

第1表 生育、収量および品質^{a)}
Table 1. Growth, yield and quality

場所	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	標準比 (%)	千粒重 (g)	品質 ^{b)}	倒伏 ^{c)}	穂いもち病 ^{c)}	縞葉枯病 ^{c)}
本場 標肥	月の光	8.22	10.5	79.1	22.4	290	58.0	105	22.6	3.4	0.0	0.0	0.0
	秋晴	8.23	10.6	85.7	20.1	345	55.5	100	22.3	4.4	0.6	0.0	0.0
	アキツホ	8.25	10.9	82.6	21.0	334	56.5	102	24.1	3.7	0.0	0.0	0.1
本場 多肥	月の光	8.23	10.6	80.2	22.9	313	61.4	105	22.5	4.0	0.0	0.0	0.0
	秋晴	8.23	10.7	85.9	20.4	375	58.5	100	22.2	4.9	1.0	0.3	0.1
	アキツホ	8.25	10.9	84.8	21.3	368	58.4	100	23.7	3.9	0.4	0.0	0.2
分場 標肥	月の光	8.15	9.29	76.5	22.2	321	58.2	99	22.2	3.2	0.0	0.0	0.0
	秋晴	8.17	9.29	84.8	20.2	369	58.7	100	22.3	3.3	0.3	0.1	0.0
	アキツホ	8.19	10.2	80.7	20.5	360	56.7	97	23.5	3.0	0.0	0.3	0.0
都祁 標肥	月の光	8.20	10.2	76.8	19.8	405	61.8	103	21.2	3.0	0.0	0.0	0.0
	秋晴	8.21	10.3	84.1	18.0	525	60.0	100	21.4	3.4	0.0	0.0	0.0
	アキツホ	8.24	10.6	77.0	21.0	349	55.8	101	23.7	3.7	0.3	0.0	1.0
五条 標肥	月の光	8.21	10.5	74.4	22.6	310	62.4	113	22.0	3.4	0.0	0.0	0.0
	秋晴	8.22	10.5	79.8	20.5	387	55.1	100	22.1	4.0	0.5	0.5	1.0
	アキツホ	8.24	10.6	77.0	21.0	349	55.8	101	23.7	3.7	0.3	0.0	1.0
平群 標肥	月の光	8.21	10.3	74.7	21.9	357	57.3	105	22.4	3.3	0.7	0.3	0.0
	アキツホ	8.25	10.6	76.9	19.8	440	54.6	100	23.6	3.0	1.0	0.0	0.3
	アキツホ	8.27	10.10	77.8	20.9	306	53.7	113	22.2	3.8	0.0	0.0	0.0
田原本 標肥	月の光	8.24	10.10	77.8	20.9	306	53.7	113	22.2	3.8	0.0	0.0	0.0
	アキツホ	8.27	10.12	78.3	18.7	369	47.7	100	23.3	3.5	0.0	0.0	0.3

a) 分場は 1983～1988年、本場標肥は 1984～1988年、本場多肥、都祁、五条は 1985～1988年、平群、田原本は 1986～1988年に試験。 b) 1 (上の上) から 9 (下の下) で評価。 c) 0 (無) から 5 (甚) で評価

質は分場で秋晴よりわずかに良かったが、アキツホよりやや劣り、都祁では秋晴より少し優れていた。

以上の結果から、月の光の特性をまとめると、出穂期は秋晴と同等～3日早く、アキツホより2～4日早い。成熟期は秋晴と同じか1日早く、本県では早生種に属する。稈長は秋晴より約6cm、アキツホより約3cm短く、穂長は秋晴・アキツホより1cm以上長い。穂数は秋晴・アキツホより10～15%少ない。短稈・長穂の偏穗重型品種である。外観品質は秋晴より1階級程度良い。食味はアキツホと同等以上である。千粒重は秋晴とほぼ同じでアキツホより1g程度軽い。収量性は秋晴とほぼ同じかやや高い。耐倒伏性は秋晴・アキツホに比べ明らかに強い。また、愛知作研で縞葉枯病、葉いもち病、穂いもち病、ごま葉枯病に強く、白葉枯病には中程度であるとしており^{1,2)}、縞葉枯病、穂いもち病には秋晴、アキツホより強い。

栽培適地 本県における栽培適地は①中間部（標高100～300m）で、吉野川沿いの南部中間地区と生駒葛城金

剛山麓の西部中間地区、②平坦部（標高100m以下）の野菜前後作で早熟・強稈品種を必要とする地区、③縞葉枯病に抵抗性を持つので、その常発地等に適応し、秋晴などの他の品種に代替し普及が見込まれるので、奨励品種として選定した。

栽培上の注意点³⁾ ①分けつがしにくく茎数が少ないので、栽植密度は多めとし、初期生育の促進、早期分けつの確保に努める。②少肥栽培では十分な収量が望めないので、アキツホに準じて肥培する。③成熟期が、秋晴・アキツホに比べ早く、穂発芽耐性も劣り、刈遅れにより品質低下するので、注意する。また、成熟期でも茎葉がしっかりしており、圃場全体でみると成熟期の判定を誤りやすいので、穀の色で判断する。④実肥などの後期追肥は、食味の低下を招くので控えることである。

（謝辞）本試験の栽培に当たった場内関係職員の方々、また、現地調査においては担当農業改良普及所職員および担当農家の方々にご協力をいただいたので、ここに厚く御礼申し上げる。